

# 神楽通信

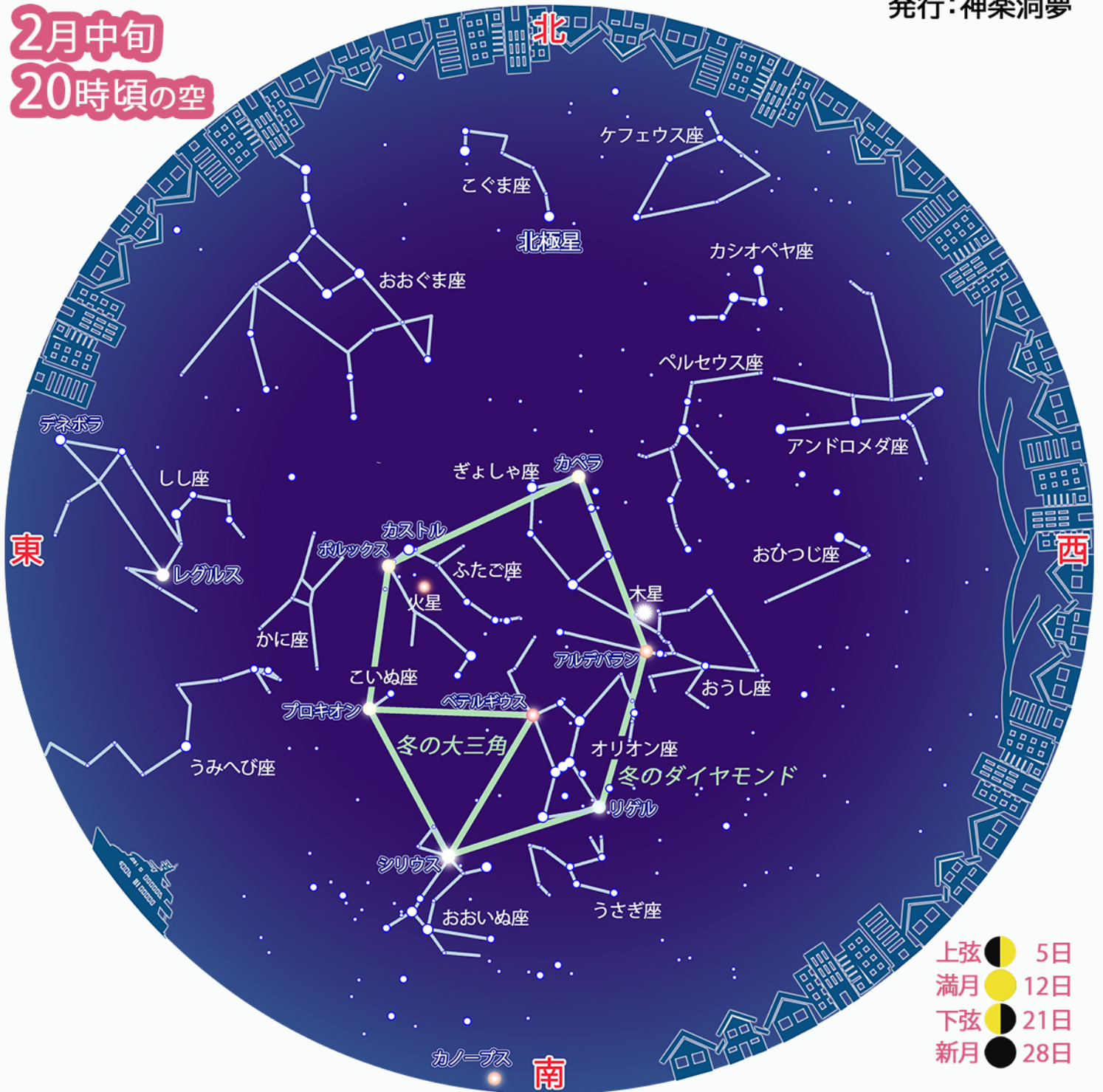
No.108

2025年

2月号

発行:神楽洞夢

2月中旬  
20時頃の空

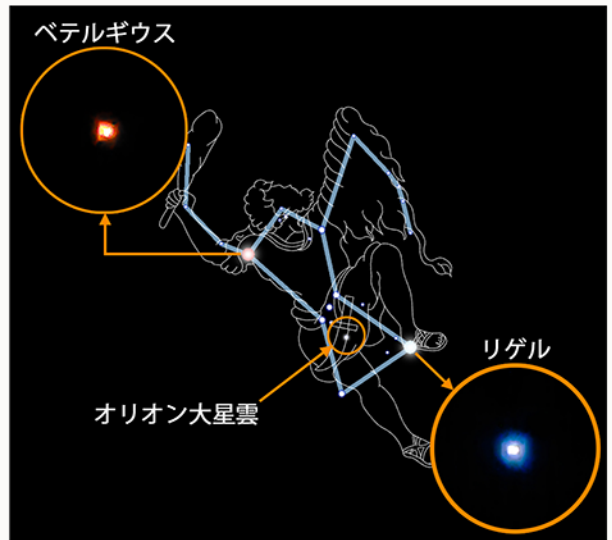


まだ寒さの厳しい時季ですが、3日には立春を迎え、地上では紅白の梅の花が咲き始めるころです。天上でも赤、白、黄色などカラフルな輝きの星たちが夜空を彩っています。今年は「冬のダイヤモンド」の近くに火星、木星と明るい二つの惑星があるので、特に賑やかな様子です。澄んだ冬の星空を見上げ、明るく輝く冬の星々と惑星たちの共演を楽しんでみてはいかがでしょうか。

## 紅白に瞬く“平家星”と“源氏星”

この時季、南の空に見えるオリオン座は星座の中でも人気のある星座の一つで、砂時計などに例えられる特徴的な星並びは街中でも結ぶことができます。

狩人オリオンの姿は、星座の中ほどに並んで輝く同じくらいの明るさの三ツ星を腰に巻いたベルトとして、その周りを囲む四つの星でオリオンの体を表します。



さて、オリオン座では赤く瞬く「ベテルギウス」と青白く瞬く「リゲル」、二つの1等星が目立っています。

日本では、この二つの星の瞬きを平安時代の源平合戦にちなんで、ベテルギウスを平家の赤旗に例えた「平家星」、リゲルを源氏の白い旗に見立てた「源氏星」と呼ぶことがあります。ちょうど三ツ星を挟んでにらみ合っているようです。

ベテルギウスは、年老いた巨大な星で、直径は太陽の700倍以上あります。いずれは、「超新星爆発」と呼ばれる大爆発を起こして最期を迎えると予想されています。赤く見えるのは、ベテルギウスの表面温度が下がり、およそ3600度程度になっているためです。

一方のリゲルは、エネルギーの高い超高温の星で、表面温度はおよそ12000度ほどです。比較的若い星ですが、エネルギーの放出量が大きいため、あと数千万年で燃え尽きると考えられています。

## “星のゆりかご”オリオン大星雲

オリオン大星雲は、地球からおよそ1400光年の距離にあるガスや塵の集まりで、オリオン座の三ツ星の下に淡い光として見るすることができます。

星雲の中では多くの星が生まれていて、中心には「トラペジウム」と呼ばれる、非常に若く重い星々が存在します。

これらの星は強力な紫外線を放出しており、それを受けて星雲が輝いています。

オリオン大星雲の輝きは、まるで生まれたばかりの星の産声のように感じます。



画像：K.L. Luhman, G. Schneider, E. Young, G. Rieke, A. Cotera, H. Chen, M. Rieke, R. Thompson, NASA\_ESA



Okasan Digital Dome Theater  
神楽洞夢  
KAGURA DOME

〒514-0032 三重県津市中央5-20 岡三証券グループ津ビル4階  
http://kagura-dome.jp TEL. 059-221-3121 FAX.059-226-1565